


1
カザの
最後子入れる

リンカクニ重細線

18ホ
藤村童話叢書
竹久元一
カット



東京 研究社 出版

少年のときより著作をしようと決心から、**新**
とよ「カザ」に著述を^書く事とした。**新**は本を機会に
作者自作童話叢書ともいふ、**新**もの、作風を思ふ
^{作者の}この童話の著述者は藤村と云ふ事はよく知
人の一生をほとんどその少年期に**新**で決する事か
いふことは想ひに到れぬ、**新**少年の読本 **新**
とよ、**新**著者^者は^者とせよとも**新**仕事は思はれず。こ
^{著者}著書は預約出版でもありませんか、**新**です。

れと擬書は、著者が
以前は古いと自作の童
話集をまとめて、この
記念の著者を出行することにした。この
楽しい
讀者諸君の隆意に任せて

ふるさと

清原の表面子(廣きの續キ)

おふじく

ささふものがたり

ささふものがたりの序文系結

はしがき

この「ささふものがたり」は、さきに出しま
しよ「ふるさと」の後をうけて、少年の日
の思ひ出を**新**自分の子供等は語りきかせ、
まよと廣く世の幼い人達にもその親達も讀ん
で見て貰おうといふ心から書きましましたので
す。

- 二 荏物を運ぶ馬
- 三 奥山は燃える火

- 八 木曾川
- 九 柳林處